

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-21

部門名: カリキュラム・マネジメント実践部門	エントリー名: 熊本大学教育学部附属小学校 猿渡 徳幸 平成30年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 令和元年度教職員等中央研修(校長研修)
活動名: The 魅力ある学校づくり ～カリ・マネで学校をよりよいものに～	
解決すべき課題 文部科学省の有識者会議(H29.8月)の報告にあるとおり、附属学校の存在意義が問われている。本研修で学んだカリキュラム・マネジメントの考え方を活かし、本校のよさを活かした魅力ある学校づくりを校長の立場でいかに取り組むか。魅力ある学校がその存在意義につながる。	
目標・方針 学校教育目標の実現を目指し、カリキュラム・マネジメントの考え方を、特にPDCAサイクルを効果的に活用した学校総体としての取組を工夫することで、学校の活性化と魅力ある学校づくりにつながる考えた。 ○そのために、①教職員の意識を変え、②学校組織を工夫し、その成果を③検証・改善する。 ○魅力ある学校づくりの指標を、①教育の質の向上と関係者の有用感、②地域貢献(本校の存在意義)とし、学校評価等で検証する。まずは①に重点を置き、教育の質を向上させ、②へ。	
活動内容 ○教職員の意識の变革・・・学校教育目標等の周知、成果と課題の共有 → 人事評価制度の活用(課題と目標の設定、目的意識) <図1> ○学校組織の工夫・・・学校総体としての全教職員の参加と協働 → 部会制の活用(目標と課題、方策の共有) <図2> ○成果の評価・改善・・・学校評価等の活用 → 積極的な活用と改善 <グラフ1、図4>	
活動の成果 ○魅力ある学校づくりにつながった。← 学校への満足度 <グラフ1、図3> ○学校の活性化につながった。← 教育の質の向上、地域貢献 <図3> ○組織力の向上につながった。← 部会制の活性化、教職員の達成感 <図2、5> ○教職員の人材育成につながった。← カリ・マネの意識化、学校運営参画意識の向上 <図5> ・これらの取組や成果等を研究発表会で報告し、高い評価を得た。<図3> ・これらの成果を本年度の学校経営に反映し、魅力ある学校づくりにつなげることができた。<図4>	
アピールポイント(アイデアや工夫) ○成果が生まれた背景には「カリキュラム・マネジメントの考え方」を活用した学校経営がある。 ○PDCAサイクルを効果的に回し、「学校評価等を活用」することで、学校教育目標等の達成が明確になった。その結果、教育活動の質の向上が図られ、魅力ある学校づくりにつながった。 ○「人事評価制度を活用」し、教職員の意識改革(前例踏襲的な意識の打破、職員の学校経営参画意識の向上等)が図られた。その結果、学校の活性化が図られ、人材育成にもつながった。 ○どの学校でも行われている学校評価や人事評価制度をカリキュラム・マネジメントの考え方で有効に活用することに汎用性があり、人材育成や組織力の向上など予想以上の効果があった。	

図1 人事評価制度を活用 PDCA サイクル

学校教育目標と個人の目標設定とをつなげる。実態と課題、目標をつなげ、数値目標は学校評価と関連させる。PDCAサイクルを効果的に回す。
目標設定面談・・・PDCAの意識化、学校評価との関連
 確かな学力、豊かな心身・・・学級経営目標
 校務目標・・・部会目標と整合させる。
教育実践・・・教育実践の反省 目標の明確化
 反省を次の行事や取組につなげる。
育英面談・・・進捗状況把握 取組の焦点化 修正
評価・・・学校評価等で評価 分析
改善・・・部会での改善の具体化 学級経営の反省
 教科等横断的な視点 人的物的資源確保

図2 学校組織の活性化

実働的な組織へ→成果を人事評価と関連させる。
 ※目標を設定し、PDCAサイクルで評価・改善
教務部・・・教育過程・学力向上 **知**
研究部・・・研究推進・学力向上
生活部・・・生徒指導・安全指導 **徳**
校務部・・・教育環境・情報教育 **体**
体育部・・・健康教育・食育 **体**
実習部・・・教育実習運営
事務局・・・予算執行・外部連携
 主幹 **学年部**・・・学年・学級経営

グラフ1 学校評価(児童・保護者・教職員の相関関係)本校の教育活動・目指す児童像の点検

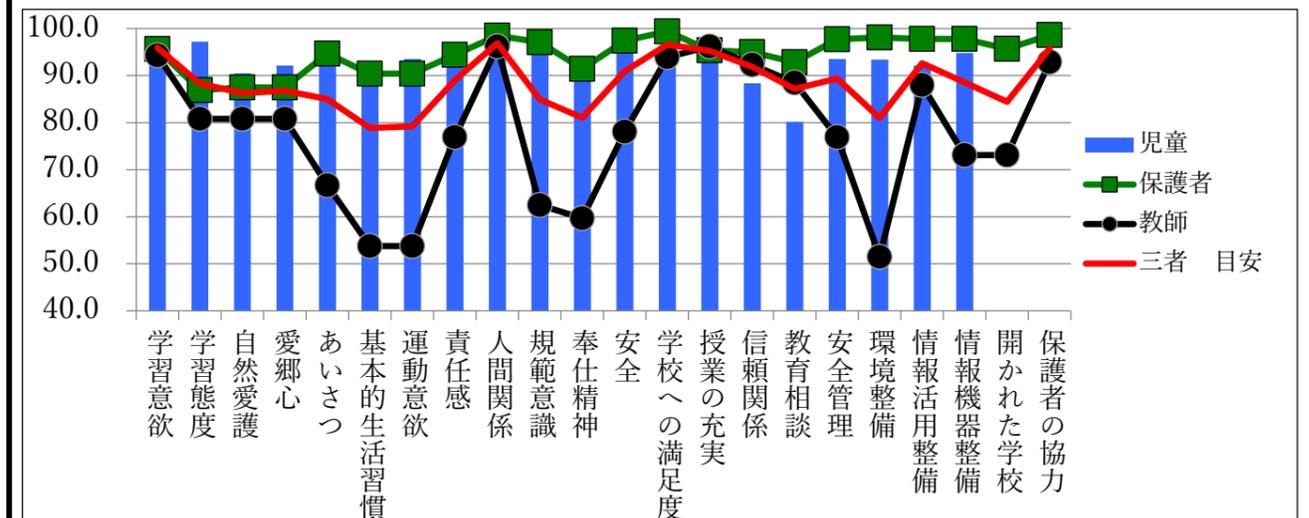


図3 魅力ある学校づくりの評価指標

① 教育の質の向上と関係者の有用感 ← 学校評価から
 ○「本校で学んでよかった」と思う児童・・・96.4%
 ○「子どもを本校に通わせてよかった」と思う保護者・・・99.4%
 ○「本校に勤務してよかった」と思う教職員・・・92.6%(倍増)
 ○感想「学校生活に満足」「本校ならではの行事や活動に満足」
 ② 地域貢献、教育の質の向上 ← 研究発表会アンケートから
 ○「発表会の内容は今後の授業に活用できる」・・・99.4%
 ○感想「主体的・対話的で深い学びの具体化が見れてよかった。」
 「職員全体でベクトルを揃えて教育に取り組んでいる姿に感銘を受けた。」(学校づくり部会)
 ○発表会参加者の増加(昨年度)400人→620人(約1.5倍増)

図4 学校評価等の活用(検証・改善)

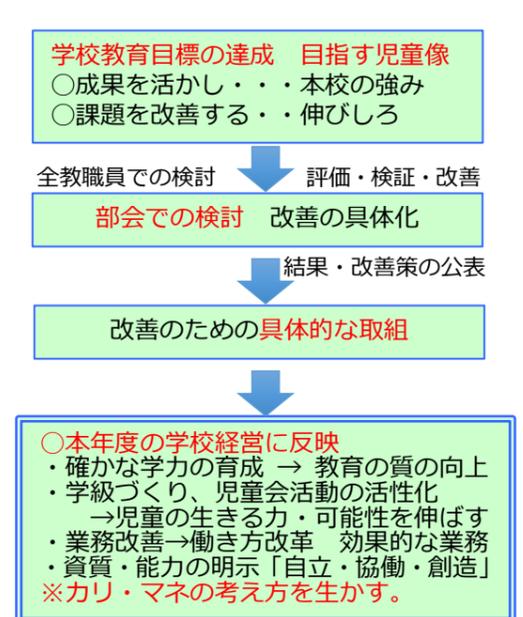


図5 教職員の評価

本校の強み 「学習意欲の高い児童」「研究実践の確かさ」
 「職員の協力体制」「保護者の協力体制」
 本校の弱み 「基本的生活習慣の弱さ」「人間関係の希薄さ」
 「学級づくりの弱さ」「学校施設の不十分さ」
 魅力ある学校への提言 「児童の姿で勝負」「研究の推進」
 「業務改善」「本校の取組の発信」
 自己評価(業績評価Aの割合) 学力(33%) 生活(30%) 校務